

《研究ノート》

大学初年次教育における情報リテラシー教育の実際

— 質問紙調査から見た結果と課題 —

桑原 和也 貞清 裕介 緒賀 正浩 榎本 立雄

アブストラクト

本研究ノートは、拙稿「大学初年次教育における情報リテラシー教育の課題 — ICTスキルの二極化問題と情報モラル問題に焦点を当てて —」によって調査課題として示された項目に対し、平成30年度に本学で情報リテラシーを履修している初年次の学生に対して行った質問紙調査の報告と他大学等で行われた先行研究との比較、検討をまとめたものである。

その結果、本大学の学生も、他大学における調査と大きな差は無いことが判明した一方で、少数ながら、情報機器活用経験に乏しい学生が存在していることも判明した。

キーワード

情報リテラシー・情報モラル・初年次教育

Key Word

information literacy・information ethics・First Year Experiences

はじめに

本研究ノートは、拙稿「大学初年次教育における情報リテラシー教育の課題 — ICTスキルの二極化問題と情報モラル問題に焦点を当てて —」において調査課題として示した項目に対し、平成30年度に本学で情報リテラシーを履修している初年次の学生に対して行った調査報告をまとめたものである。加えて、同様な調査を行っている先行研究と本大学の調査結果との比較、検討を通して、本大学の初年次学生の特徴や他大学の学生との共通性を見出すことで、今後の調査項目の充実を図っていくことを意図している。

1、情報リテラシー教育の調査課題と先行研究の検討

筆者らが行った昨年の研究報告において、初年次教育として行われている情報リテラシーの調査課題として挙げたのは次の三点である¹。一点目は学生の情報機器活用能力²について、二点目は情報モラルに関わるSNS（Social Networking Service、以下SNSとする）の利用状況及びSNSトラブルについて、三点目は情報検索及び情報収集能力についてである。そこで、これらの課題に応じる形で質問紙調査研究を行った。なお、調査の概要及びその結果については「2、調査概要」、「3、調査結果と考察」でそれぞれまとめる。

次に、本調査の比較対象若しくは参考にした調査研究を挙げていく。一点目の学生の情報機器活用能力に関する調査研究は数多い。その中でも金井の研究は、初年次の学生に対して質問紙調査を行っており、その内容が情報機器活用能力の基本的な知識や技能に関する質問を詳細に行っており、本大学の講義内容で扱っている内容と近い。したがって、本研究では情報環境に関する項目や、Microsoft office ソフトのスキルなどの情報機器活用能力に関する調査項目は金井の研究³を参考に作成した。このことから、金井の研究は比較や検討をする上で外すことはできない。

なお、情報機器活用能力について、同様な研究例としては柴田の研究⁴、有田の研究⁵、篠の研究⁶、本間の研究⁷らが挙げられる。柴田の研究では、入学前と講義受講後の情報リテラシーの学習効果を検討したものである。有田の研究では、入学以前の知識やスキルから学生が情報リテラシー教育に期待している効果について論じている。篠の研究は、2大学の入学前の情報教育の履修状況やパソコン環境、情報機器活用能力について調査を行っている。最後に本間の研究では、入学前の情報機器活用能力のスキルや高等学校での履修状況などを調査研究している。それぞれの研究は、入学以前の情報教育の履修や情報機器活用能力の質問紙調査を行っているが、金井の研究と比較すると入学前における Microsoft office ソフトのスキルについて詳細に調査を行っていないため、本研究ノートでは金井の調査研究を主にして比較を行っている。

二点目の情報モラルに関わるSNSの利用状況及びSNSトラブルに関する先行研究は一点目に比べれば多くはない。その中でも、大学生のSNSトラブルに関わる研究を行っている石川の研究が注目される。ただし、石川の研究はネット炎上や個人情報などのネットトラブルに関する調査を詳細に行っている一方で、本研究のSNSトラブルについては、そこまで詳細には調査していない。したがって、全項目の直接的な比較は難しいが、ネットトラブルに遭遇したかの項目とは共通性があるために比較することができる。なお、大学生の情報モラルの研究として、他には野田の研究⁸や飯高の研究⁹が挙げられる。野田の研究は情報リテラシー受講生の学生の著作権の知識に関する調査を行っており、また、飯高の研究は個人情報の取扱意識や、ソフトウェアの不正コピーに関する意識、ICT活用における著作権に対する意識調査などの質問項目を用いた調査を行っている。これらの先行研究調査と比較すると、今回の研究で行った調査では、情報モラルの項目に不足している点が見受けられるため、次回以降の調査ではこれらの項目を充実させていく必要がある。

三点目の情報検索及び情報収集能力に関する先行研究に関しても、本研究は一点目の情報機器活用能力と同様に金井の研究を参考に質問項目を作成したため、金井の研究が主として比較検討する対象である。なお、それ以外に柴田の研究も情報検索及び情報収集に関

する調査を行っているため、本研究の比較対象の一つとする。

最後に、大学生のIT（ICT）資格に関するデータは有田の研究がデータを示しているので参考にしていく。

2、調査概要

本質問紙調査は平成30年4月、本大学で初年次必修講義として開講されている「情報リテラシーa」の初回授業時に任意回答の形で実施された。調査対象の学生は本大学の1年生2,118名で、そのうち回答されたものが1,802名であった（回答率85%）。なお、本質問紙調査の項目については、先述の先行研究を元にして¹⁰、学生自身の情報通信環境及び情報機器活用スキルとIT関連の資格の有無、そして各種情報ツールを用いる中でトラブルに遭遇、若しくは巻き込まれたか等についての26項目とした。なお、本質問紙調査の内容に関しては巻末の資料として載せておく。

3、調査結果と考察

（1）情報機器活用能力について

学生の携帯端末の所持は、「持っていない」と回答した4名であった。それ以外の学生は、携帯端末を所持しており、その中でも「iPhone」を所持していると回答した学生が81%であった。

日常生活の中でパソコンを使っている学生は75.2%であった。また、その中では「親（家族）のパソコンを使っている」と回答した学生が39.2%、次いで、「自分のノートパソコンを使っている」と回答した学生が30.5%であった。一方で、パソコンを「使っていない」と回答した学生は24.8%であった。

パソコン（タブレット）の使用頻度は、「使わない」と回答した学生が32.6%と最も多く、次いで「1週間に1回」と回答した学生が26.8%、「毎日」と回答した学生が22.2%であった。何時からパソコン（タブレット）を使い始めたのかという質問項目については、「小学校から」と回答した学生が43.5%であった。これは小・中学校、及び高等学校におけるカリキュラムとの関係性もあると考えられるが、「小学校入学よりも前」から使用しているという回答も合わせれば47.2%となり、それらの学生は比較的早い時期からパソコン（タブレット）を使い始めていた。

パソコン操作及び入力について、金井の調査では「key入力（ローマ字入力）ができますか？」では76.5%の学生が「できる」、「大体できる」と答えていたのに対し¹¹、本大学の学生は合わせて88.7%がkey入力（ローマ字）を「できる」、「大体できる」と回答した。したがって、パソコン操作の基本スキルは最低限有していると考えて良いかもしれない。ほとんどの学生はkey入力（ローマ字）をできると回答しているが、実際授業を行っているときkey入力（ローマ字）スピードの差が目立つ場面も見受けられる。したがって、今後は「ブラインドタッチができるか？」など入力動作の詳細に触れたものも質問項目に入れる必要がある。

しかし、key入力（ローマ字）を「できない」、「あまりできない」と回答した学生も

11.2%存在している。このようなパソコンのkey入力（ローマ字）ができないと認識している学生にとって、本大学に限らず大学初年次で開講されている情報リテラシー系の講義の難易度が高い可能性があり、その結果が授業内における理解の差として現れてしまうかもしれない。したがって、これらの学生に対しては、従来のTAを中心としたサポート方法の他に、授業内容の設定段階からフォローの方法を検討することも必要である¹²。

電子メールの使用経験では、金井の調査では「ある」が60.5%であったの対して¹³、本大学の学生は91.5%が「パソコンと携帯電話の両方で使っている」と答えており、さらに、パソコンのメールより「携帯電話のみで使っている」と回答した学生が65.9%であった。スマートフォンなどの端末が普及している今日では、パソコンより携帯端末を操作する機会の方が多く、それが電子メールの使用経験ではこのような結果として表れていると言える。

表1-1：情報機器活用能力についての状況（基本操作）

※複数回答の割合は回答者数(n=1802)より算出

質問内容	回答項目	回答数	割合
携帯端末を持っていますか？（複数回答）	①iPhone	1459	81.0%
	②スマートフォン（Android）	382	21.2%
	③スマートフォン（その他）	16	0.9%
	④iPad	191	10.6%
	⑤iPad以外のタブレット端末	126	7.0%
	⑥ネットブック	16	0.9%
	⑦その他	15	0.8%
	⑧持っていない	4	0.2%
小中高校でこれまでにパソコンを使った授業がありましたか？	①あった	1785	99.1%
	②なかった	17	0.9%
あなたは日常生活でパソコンを使っていますか？（複数回答）	①自分のデスクトップパソコンを使っている	170	9.4%
	②自分のノートパソコンを使っている	550	30.5%
	③自分のタブレット（iPad等）を使っている	191	10.6%
	④親（家族）のパソコンを使っている	706	39.2%
	⑤その他	28	1.6%
	⑥使っていない	447	24.8%
パソコン（タブレット）の使用頻度はどの位ですか？	①毎日	397	22.2%
	②2～3日に1回	330	18.4%
	③1週間に1回	480	26.8%
	④使わない	585	32.6%
パソコン（タブレット）は何時から使い始めましたか？	①小学校入学より前	66	3.7%
	②小学校から	784	43.5%
	③中学校から	474	26.3%
	④高校から	293	16.3%
	⑤大学に入学してから	126	7.0%
	⑥使ったことが無い	59	3.3%
あなたは自作のパソコンを持っていますか？	①持っている	264	14.7%
	②持っていない	1538	85.3%
パソコン（デスクトップPC、ノートPC）の操作は普段何で行っていますか？（複数回答）	①マウス	1230	68.3%
	②キーボード	861	47.8%
	③その他	87	4.8%
	④パソコンは使っていない	270	15.0%
パソコンでkey（ローマ字）入力ができますか？	①できる	1001	55.5%
	②大体できる	599	33.2%
	③あまりできない	178	9.9%
	④全くできない	24	1.3%
電子メールを使いますか？	①パソコンと携帯電話の両方で使っている	422	23.4%
	②パソコンのみで使っている	40	2.2%
	③携帯電話（スマートフォン）のみで使っている	1188	65.9%
	④使ったことが無い	152	8.4%

Microsoft officeソフトのうち、使ったことのあるソフトについて金井の調査ではWordが82.7%、Excelが77.8%、PowerPointが71.6%であった¹⁴のに対して、本大学の学生はWordが87.3%、Excelが82%、PowerPointが75.6%であった。これは金井の研究と同じくWordの使用経験が最も高く、続いて、Excel、PowerPointという順に使用されている。

また、Wordの「基本的な文章作成」ができると回答した学生は85.6%、Excelの「データの入力」ができると回答した学生は74%、PowerPointの「文字だけのスライド」が作成できると回答した学生は72.5%となっており、基本的な操作については概ねできるという結果が得られた。それ以外のMicrosoft officeソフトの操作に関する質問項目では、本大学の学生はPowerPointの「オブジェクト（図形・写真）の挿入」以外は50%を切るデータ

が示されており、特にWordの「脚注機能や目次作成機能などを使った複雑な文章作成」やExcelの「数式作成条件分岐（IF関数など）の複雑な関数」についてできると回答した学生は共に10%を超えなかった。

以上、Microsoft office ソフトの操作内容について、本調査研究と金井の研究を比較した場合、基本操作（Wordの文章入力、Excelのデータ入力、PowerPointの文字だけのスライド）は金井のそれよりも高く、本大学の学生たちは基本操作については最低限の操作はできているという結果が示された¹⁵。加えて、金井の調査と比較するとWordとPowerPointの「オブジェクト（図形・写真）の挿入」以外の質問項目に対して、10%以上の差が示されることはなかった¹⁶。しかし、Excelの「セルの編集」、「簡単な関数の使用」、「グラフ作成」、PowerPointの「オブジェクト（図形・写真）の挿入」では10%以上の差が表れていた。

本大学の学生はExcelの「セルの編集」が39.5%、「簡単な関数の使用」は28.5%、「グラフ作成」は29.9%とそれぞれできると回答していた。一方、金井の調査結果では「セルの編集」は53.1%、「簡単な関数の使用」は44.4%、「グラフ作成」は40.7%ができると回答されており、それぞれ本大学の学生は10%以上低いデータが示された¹⁷。ただし、PowerPointの「オブジェクト（図形・写真）の挿入」に関しては、本大学の学生は54.4%できると回答しており、金井の調査結果では33.3%であり、20%以上の差が表れた。この状況を踏まえると、本大学の学生はWordとPowerPointの操作は概ね他大学と比較しても概ね大きな差が見られない一方で、Excelの操作については難を示していると言える¹⁸。

また、そもそもMicrosoft office ソフトを「使ったことがない」と答えている本大学の学生はWordで11.7%、Excelで18.1%、PowerPointで21.8%おり、こうした使用経験の差が授業内における習熟度の差となって表れている可能性が示唆される。したがって、使用経験の差から来る習熟度の差を授業においてどのように埋めていくかが今後の課題ではないだろうか。加えて、Excelの操作に関する授業については、複雑な操作ができないと認識している学生も多く、より丁寧に教える必要があると言える。そして、今後の講義内容を考えていく上では、そのようなパソコンを使ったことがない学生に対する配慮（例：基本的操作の習得の支援等）も必要であると言える。

表1-2：情報機器活用能力についての状況（各種ソフトの操作について）

※複数回答の割合は回答者数(n=1802)より算出

質問内容	回答項目	回答数	割合
今までに使ったことのあるソフトは？（複数回答）	①Word	1574	87.3%
	②Excel	1477	82.0%
	③PowerPoint	1362	75.6%
	④Access	32	1.8%
	⑤Photoshop	199	11.0%
	⑥一太郎	216	12.0%
	⑦その他	86	4.8%
	⑧使ったことがない	101	5.6%
	⑨使ったことがない	101	5.6%
Wordで出来る内容があれば選択してください（複数回答）	①簡単な文章作成	1543	85.6%
	②図や表の挿入	837	46.4%
	③脚注機能や目次作成機能などを使った複雑な文章作成	109	6.0%
	④使ったことがない	211	11.7%
Excelで出来る内容があれば選択してください（複数回答）	①データの入力	1334	74.0%
	②セルの編集	712	39.5%
	③簡単な関数の使用	513	28.5%
	④グラフ作成	539	29.9%
	⑤数式作成条件分岐（IF関数など）の複雑な関数	128	7.1%
	⑥使ったことがない	326	18.1%
PowerPointで作業できる内容があれば選択してください（複数回答）	①文字だけのスライド	1306	72.5%
	②オブジェクト（図形・写真）の挿入	980	54.4%
	③アニメーション機能	709	39.3%
	④使ったことがない	392	21.8%

(2) 情報モラルに関わる SNS の利用状況及び SNS トラブル

自分の「Webページを持っていない」と回答した学生は77.2%であり、「ブログを持っていない」と回答した学生も87.8%であった。それに加えて、「Webページを知らない」と回答した学生が19.6%、「ブログを知らない」と回答した学生も8.2%いた。したがって、webページを開設、又はブログを開設するよりもコミュニケーションツールとしての利用が主であることが分かった。

今日、コミュニケーションツールとして浸透しているのがSNSであるが、その中でもLINE、Twitter、Instagramのアカウントを有し、かつ、よく利用している者が多かった。単体で見れば、本大学の97.3%の学生がLINEアカウントを持っていると回答した。次いで、Twitterアカウントの保有者が83.1%、Instagramが60.2%であった。本質問紙調査では23.7%であったFacebookのように、SNSの中には実名での登録が求められているものもあるが、学生の中ではハンドルネーム若しくはニックネームで使えるものの方がよく利用されている傾向にある。そして、今日の学生はwebページを用いて自ら情報を発信するというよりも、コミュニケーションツールとして活用している傾向が強い。

SNSでトラブルに遭遇した経験については、68.3%の学生は「遭遇したことはない」と答えていた。一方で、「巻き込まれた」と回答した学生も4.8%おり、「他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある」と回答した学生も26.9%いた。本大学の講義では情報倫理・モラルについても内容として扱っているが、その際にも「過去に危うく被害に遭いそうになった」と話す学生がいた。本質問紙調査での回答項目は「巻き込まれた」、「他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある」、「遭遇したことはない」という3項目のみであったが、上記のような報告を踏まえると巻き込まれてはいないものの、トラブル未遂レベルのものは多くあるのではないかと考えられる。

内閣府の「平成29年度青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、インターネットを使っている10～17歳の2,713名を対象として、何らかのインターネット上のトラブルや問題行動に関連する行為の経験が有ると回答した者が35.5%であった¹⁹。したがって、本大学の学生のインターネット（SNS）上のトラブル遭遇率も、概ね内閣府の調査と同じであると言えるだろう。

学部・学科にもよるが、大学においては課外実習や研修、そして自身の教育及び研究活動等によって外部と関わる機会が多い。したがって、インターネット（SNS）トラブルと無縁とは言い切れない。大半の学生は、大学入学の時点ではインターネット（SNS）トラブルの経験がないものの、そこから「インターネット（SNS）トラブルに遭遇していないから、自分は大丈夫」といった安易な考え方を持たせるのではなく、「インターネット（SNS）トラブルとは紙一重にあるのだ」ということを学生に意識させて、学生としての活動を考えさせていくことも必要であると言える²⁰。そのためには、学生自身のコミュニケーションスキルを向上させていくための方法と合わせて、情報モラルについても考えていく必要があると言える。

表 2：情報モラルに関わる SNS の利用状況及び SNS トラブル

※複数回答の割合は回答者数(n=1802)より算出

質問内容	回答項目	回答数	割合
自分のwebページ（ホームページ）を持っていますか？	①Webページを持っている	57	3.2%
	②Webページを持っていない	1391	77.2%
	③Webページを知らない	354	19.6%
自分のブログを持っていますか？	①ブログを持っている	71	3.9%
	②ブログを持っていない	1583	87.5%
	③ブログを知らない	148	8.2%
SNSのアカウントで持っているものがあれば選んでください（複数回答）	①LINE	1754	97.3%
	②FaceBook	427	23.7%
	③Twitter	1498	83.1%
	④Instagram	1084	60.2%
	⑤mixi	46	2.6%
	⑥mastodon	12	0.7%
	⑦その他	97	5.4%
	⑧持っていない	30	1.7%
普段、よく使っているSNSはどれですか？（複数回答）	①LINE	1698	94.2%
	②FaceBook	49	2.7%
	③Twitter	1252	69.5%
	④Instagram	866	48.1%
	⑤mixi	7	0.4%
	⑥mastodon	2	0.1%
	⑦その他	50	2.8%
	⑧持っていない	30	1.7%
SNSでトラブルに遭遇したことがありますか？	①自身が巻き込まれたことがある	87	4.8%
	②他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある	484	26.9%
	③遭遇したことはない	1231	68.3%

（3）情報検索及び情報収集能力

情報検索及び情報収集能力では、本大学の学生は68%の学生がweb検索を「頻繁に（1日に何回も）使う」と回答し、「時々使う」を回答したものを含めると95.4%が使っていた。前述の金井の調査結果では「URL入力」が59.3%、「検索エンジン」の利用が58%であった。したがって、金井の研究と比較すると本大学の学生は検索ツールをいずれの形で使用している状況であった。しかし、web検索を「使ったことがない」、「あまり使ったことがない」と回答した学生も合わせて4.6%いることから、学生間において情報検索、情報収集能力に差があることは否めない。実際、それが授業内における理解の差となって表れる場合もあり、検索についても自分が必要としている事象に対して、どのようなアプローチで調べていくかということも教えていく必要があると言える。

今回の質問紙調査では、キーワード数や検索手法（例：AND検索・OR検索等）、知的財産権、そして著作権・クリエイティブコモンズに関する質問については項目を設定できていなかった。柴田の研究では情報検索及び情報収集に関する調査だけではなく、インターネット利用に関する項目別スキルとして、知的財産権や著作権に関する調査も行われており²¹、他にも本大学では情報リテラシーの講義内容として扱っているクリエイティブコモンズについて、今後は質問項目に組み込んで、より細かい情報検索及び情報収集能力の状況の把握が必要であると思われる。

表 3：情報検索及び情報収集能力

質問内容	回答項目	回答数	割合
ヤフー、Googleなどのweb検索はどの位使いますか？	①頻繁に（1日に何回も）使う	1226	68.0%
	②時々使う	494	27.4%
	③あまり使わない	75	4.2%
	④使ったことがない	7	0.4%
URLという用語を知っていますか？	①意味も覚えて知っている	725	40.2%
	②名前知っている	1022	56.7%
	③知らない	55	3.1%

最後に、IT関連の資格についてであるが、資格そのものを「知らない」と回答した学生が全体の77.8%を占め、加えてIT関連の資格を一つも有していない学生は94.1%占めてい

た。つまり、本大学の学生は初年次の段階ではIT関連の資格について知らない、若しくは資格取得までは至っていない状態であった。このことについて、他大学においても同様のことと言える²²。資格の種類にもよるので一概に言えないが、MOS（Microsoft Office Specialist、以下MOS）資格などは、取得しておけば就職時のエントリーシートに記載できるものもある。本大学においてもMOSの講座を設けて、資格取得できる環境を提供しているが、環境の提供だけではなく、資格そのものを取得する必要性を学生自身が感じているのかといったことについての把握も併せて行っていく必要もあると言える。

表 4：IT 関連の資格について

※複数回答の割合は回答者数(n=1802)より算出

質問内容	回答項目	回答数	割合
IT関連の資格を知っていますか？（複数回答）	①初級システムアドミニストレータ	27	1.5%
	②ITパスポート	136	7.5%
	③基本情報技術者	99	5.5%
	④応用情報技術者	74	4.1%
	⑤高度情報技術者	46	2.6%
	⑥J検（情報処理活用能力検定）	71	3.9%
	⑦P検（パソコン検定）	269	14.9%
	⑧MOS・MOUS（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）	67	3.7%
	⑨MCP（マイクロソフト認定プロフェッショナル）	27	1.5%
	⑩MCA（マイクロソフト認定アソシエイト）	15	0.8%
	⑪IC3（コンピュータとインターネットの国際資格）	11	0.6%
	⑫知らない	1402	77.8%
IT関連の資格を取得していますか？（複数回答）	①初級システムアドミニストレータ	4	0.2%
	②ITパスポート	8	0.4%
	③基本情報技術者	2	0.1%
	④応用情報技術者	5	0.3%
	⑤高度情報技術者	2	0.1%
	⑥J検（情報処理活用能力検定）	26	1.4%
	⑦P検（パソコン検定）	67	3.7%
	⑧MOS・MOUS（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）	4	0.2%
	⑨MCP（マイクロソフト認定プロフェッショナル）	1	0.1%
	⑩MCA（マイクロソフト認定アソシエイト）	1	0.1%
	⑪IC3（コンピュータとインターネットの国際資格）	1	0.1%
	⑫知らない	1696	94.1%

おわりに

ここまで、本学の初年次学生の情報リテラシーの質問紙調査の報告と、それを踏まえての先行研究との比較を通して、パソコン環境やパソコンスキルの学生の特徴や共通性について論じてきた。今後の課題として、各項目の質問項目の充実が挙げられた。本稿で上がったものとして、情報機器活用能力に関してはブラインドタッチ等に代表される細かな操作に関すること、情報モラルに関してはSNSトラブルそのものには至っていない未遂レベルに関すること、そして情報検索に関しては高度な情報検索の手法や、知的財産権や著作権・クリエイティブコモンズなどの知識に関すること、それぞれの質問項目を充実していくことが課題として挙げられた。

本質問紙調査は今年度より開始したものであり、調査内容・項目については先行研究等を参考に構成したものの調査・研究としては未完成であることは否めない。したがって、さらに内容の精度を高めるべく、再考を重ねて、次年度以降も継続的に調査を行っていかねばと考えている。

なお、本質問紙調査にあたっては本大学「情報リテラシー」担当教員の協力の下で実施、そして本研究ノートは榎本の監修の下、桑原が2と3、貞清が1と3、緒賀が全体構成の担当を行った。

参考文献一覧

- 桑原和也、緒賀正浩、貞清裕介、榎本立雄「大学初年次教育における情報リテラシー教育の課題 ― ICTスキルの二極化問題と情報モラル問題に焦点を当てて ―」『明星大学大学院教育学研究科 年報』第3号、2018年、59-70頁
- 有田富美子「情報教育の現状と未来 ― 東洋英和女学院大学の場合 ―」『東洋英和大学院紀要』第14巻、2018年、1-15頁
- 飯高晶子「大学生の情報モラル意識と情動制御水準の関係」『東京理科大学教職教育研究』第2号、2018年、41-46頁
- 神部順子、小原裕二、玉田和恵「ICT問題解決力を育成するための指導法およびカリキュラム開発に向けて (1) ― 大学初年次教育における文章処理演習科目の現状と課題 ―」『Informatio : 江戸川大学の情報教育と環境』第15号、2018年、23-27頁
- 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果 (2017年度)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、2018年、191-204頁
- 本間学「大学における情報リテラシー教育の現状とカリキュラムの提案」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第50号、2018年、265-270頁
- 石川真「ネット上のトラブルを対処するための社会的スキルの傾向に関する研究」『上越教育大学研究紀要』第36巻2号、2017年、285-294頁
- 金井猛徳「大学新入生の情報リテラシに関する調査と考察」『大阪経大論集』第68巻第1号、2017年、149-159頁
- 篠政行「文科系2大学における2017年度入学生の情報教育の履修に関する意識調査」『駒沢女子大学研究紀要』第24号、2017年、201-209頁
- 野田佳邦「短期大学生を対象とした著作権リテラシー教育の試み」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』第55巻、2017年、1-10頁
- 内閣府「平成29年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」
<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/net-jittai/pdf-index.html> (2018.12.20確認)

¹ 詳しくは、拙稿「大学初年次教育における情報リテラシー教育の課題 ― ICTスキルの二極化問題と情報モラル問題に焦点を当てて ―」『明星大学大学院教育学研究科 年報』第3号 65-66頁を参照。

² なお、本稿において情報機器活用能力とは、大きく二つに分類され、一つは情報端末の所持、小中高でのパソコンを用いた授業、パソコンの使用頻度、key入力（ローマ字入力）や電子メールなどの学生の情報環境であり、もう一方はMicrosoft officeソフトのWord、Excel、PowerPointのスキルの二つに分けている。

³ 金井猛徳「大学新入生の情報リテラシに関する調査と考察」『大阪経大論集』第68巻第1号、2017年、149-159頁

⁴ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果 (2017年度)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、2018年、191-204頁

⁵ 有田富美子「情報教育の現状と未来 ― 東洋英和女学院大学の場合 ―」『東洋英和大学院紀要』第14巻、2018年、1-15頁

⁶ 篠政行「文科系2大学における2017年度入学生の情報教育の履修に関する意識調査」『駒沢女子大学研究紀要』第24号、2017年、201-209頁

⁷ 本間学「大学における情報リテラシー教育の現状とカリキュラムの提案」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第50号、2018年、265-270頁

⁸ 野田佳邦「短期大学生を対象とした著作権リテラシー教育の試み」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』第55巻、2017年、1-10頁

⁹ 飯高晶子「大学生の情報モラル意識と情動制御水準の関係」『東京理科大学教職教育研究』第2号、2018年、41-46頁

¹⁰ 前掲、金井猛徳「大学新入生の情報リテラシに関する調査と考察」

¹¹ 同上、153頁

¹² 具体的な例として復習課題の設定やサポート資料の充実、入学前教育・リメディアル教育でkey入力

(ローマ字)の訓練を行うことなどが挙げられる。

¹³ 前掲、金井猛徳「大学新入生の情報リテラシに関する調査と考察」、153頁

¹⁴ 同上

¹⁵ 同上

¹⁶ 同上。金井の報告は次のとおりである。Wordの「文章入力」は81.5%、「図や表の作成」は38.3%、「複雑な文章作成」は12.3%、未回答は12.3%であった。また、Power Pointの「文字のスライド」は63%、「オブジェクトの挿入」は33.3%、「アニメーション機能」43.2%、「未回答」は24.7%という結果が示されている。

¹⁷ 同上

¹⁸ なお、Excelの複雑な操作の習熟度がWord、PowerPointに比べて低い傾向は、柴田の研究でも指摘されている。詳しくは、前掲、柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果（2017年度）」、図1、図4参照。

¹⁹ 内閣府「平成29年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/net-jittai/pdf-index.html> (2018.12.20確認)

²⁰ なお、インターネットトラブルの詳細についての調査は、石川真「ネット上のトラブルを対処するための社会的スキルの傾向に関する研究」『上越教育大学研究紀要』第36巻2号、2017年。以下、石川真の一連の研究が参考になる。次年度以降の調査では、石川の研究を参考に、より詳細な調査を実施したい。

²¹ 前掲、柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果（2017年度）」

²² 有田の報告では資格を取得している学生は2.1%との報告が出ている。

(前掲、有田富美子「情報教育の現状と未来 ― 東洋英和女学院大学の場合 ―」、7頁)

【参考】質問紙調査内容

なお、本質問紙調査への協力は自由意志とし、無記名とした。

質問内容		回答項目
1	携帯端末を持っていますか？（複数回答）	①iPhone ②スマートフォン（Android） ③スマートフォン（その他） ④Pad ⑤iPad以外のタブレット端末 ⑥ネットブック ⑦その他 ⑧持っていない
2	携帯電話のキャリア（会社）はどこですか？（複数回答）	①NTTドコモ ②au/KDDI ③ソフトバンク ④ワイコム・イー・モバイル ⑤持っていない
3	小中高校でこれまでにパソコンを使った授業がありましたか？	①あった ②なかった
4	あなたは日常生活でパソコンを使っていますか？（複数回答）	①自分のデスクトップパソコンを使っている ②自分のノートパソコンを使っている ③自分のタブレット（iPad等）を使っている ④親（家族）のパソコンを使っている ⑤その他 ⑥使っていない
5	家（自身）のインターネット接続環境は？	①ADSL（電話回線） ②FTTH（光ケーブル） ③CATV（ケーブルテレビ） ④モバイル（Wi-Fi）接続 ⑤その他 ⑥環境が無い
6	パソコン（タブレット）の使用頻度はどの位ですか？	①毎日 ②2～3日に1回 ③1週間に1回 ④使わない
7	パソコン（タブレット）は何時から使い始めましたか？	①小学校入学よりも前 ②小学校から ③中学校から ④高校から ⑤大学に入學してから ⑥使ったことが無い
8	あなたは自作のパソコンを持っていますか？	①持っている ②持っていない
9	パソコン（デスクトップPC、ノートPC）の操作は普段何で行っていますか？（複数回答）	①マウス ②キーボード ③その他 ④パソコンは使っていない
10	パソコンでkey（ローマ字）入力ができますか？	①できる ②大抵できる ③あまりできない ④全くできない
11	電子メールを使いますか？	①パソコンと携帯電話の両方で使っている ②パソコンのみで使っている ③携帯電話（スマートフォン）のみで使っている ④使ったことが無い
12	ヤフー、Googleなどのweb検索はどの位使いますか？	①頻繁に（1日に何回も）使う ②時々使う ③あまり使わない ④使ったことがない
13	URLという用語を知っていますか？	①意味もきめて知っている ②名前知っている ③知らない
14	今までに使ったことのあるソフトは？（複数回答）	①Word ②Excel ③PowerPoint ④Access ⑤Photoshop ⑥一太郎 ⑦その他 ⑧使ったことがない
15	Wordで出来る内容があれば選択してください（複数回答）	①簡単な文章作成 ②図や表の挿入 ③脚注機能や目次作成機能などを使った複雑な文章作成 ④使ったことがない
16	Excelで出来る内容があれば選択してください（複数回答）	①データの入力 ②セルの編集 ③簡単な関数の使用 ④グラフ作成 ⑤数式作成条件分岐（IF関数など）の複雑な関数 ⑥使ったことがない
17	PowerPointで作業できる内容があれば選択してください（複数回答）	①文字だけのスライド ②オブジェクト（図形・写真）の挿入 ③アニメーション機能 ④使ったことがない
18	MicrosoftのMOSと言う資格を知っていますか？	①知っている ②知らない
19	MicrosoftのMOSと言う資格を取得していますか？（複数回答）	①Wordスペシャリスト ②Excelスペシャリスト ③PowerPointスペシャリスト ④Accessスペシャリスト ⑤Wordエキスパート ⑥Excelエキスパート ⑦取得していない
20	自分のwebページ（ホームページ）を持っていますか？	①Webページを持っている ②Webページを持っていない ③Webページを知らない

21	自分のブログを持っていますか？	①ブログを持っている ②ブログを持っていない ③ブログを知らない
22	SNSのアカウントで持っているものがあれば選んでください（複数回答）	①LINE ②FaceBook ③Twitter ④Instagram ⑤mixi ⑥mastodon ⑦その他 ⑧持っていない
23	普段、よく使っているSNSはどれですか？（複数回答）	①LINE ②FaceBook ③Twitter ④Instagram ⑤mixi ⑥mastodon ⑦その他 ⑧持っていない
24	SNSでトラブルに遭遇したことがありますか？	①自身が書き込まれたことがある ②他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある ③遭遇したことはない
25	IT関連の資格を知っていますか？（複数回答）	①初級システムアドミニストレータ ②ITパスポート ③基本情報技術者 ④応用情報技術者 ⑤高度情報技術者 ⑥J検（情報処理活用能力検定） ⑦P検（パソコン検定） ⑧MOS・MOUS（マイクロソフト オフィス スペシャリスト） ⑨MCP（マイクロソフト認定プロフェッショナル） ⑩MCA（マイクロソフト認定アソシエイト） ⑪ICQ（コンピュータとインターネットの国際資格） ⑫知らない
26	IT関連の資格を取得していますか？（複数回答）	①初級システムアドミニストレータ ②ITパスポート ③基本情報技術者 ④応用情報技術者 ⑤高度情報技術者 ⑥J検（情報処理活用能力検定） ⑦P検（パソコン検定） ⑧MOS・MOUS（マイクロソフト オフィス スペシャリスト） ⑨MCP（マイクロソフト認定プロフェッショナル） ⑩MCA（マイクロソフト認定アソシエイト） ⑪ICQ（コンピュータとインターネットの国際資格） ⑫知らない